

# CAGLIERO<sup>11</sup>

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.75 - 2015年3月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



## 友人の皆さん、

先月、私はリトアニアの宣教地を訪ねました：足は冷たく、心は温かでした！ サレジオ会員とサレジオン・シスターズは、リトアニアの若者

たちに喜びの福音をもたらすため惜しみなく働いています。私たちの拠点はプロジェクト・ヨーロッパの真ただ中、その郊外の一つにあります。6人のサレジオ会員：リトアニア人2人、イタリア人2人、ベトナム人2人。兄弟愛の美しい預言です！

ヴィリヌスの私たちの司牧する小教区、聖ヨハネ・ボスコ教会の建物は、魅力的なキリストの十字架像に焦点が向かうように造られています。強い印象を与える、細部の独特なキリスト像です。ドン・ボスコ自身が十字架を私たちに示しています。四旬節のために、すばらしいサレジオの、また宣教のメッセージです。

十字架を示すこのドン・ボスコは、ヴァルドッコでマンマ・マルグリータに示した同様の仕草を思い起こさせます。マンマ・マルグリータがベッキに帰りたと言ったときのことです。

十字架を示すこのドン・ボスコは、サレジオ会のすべての宣教師の生きた記念です。彼らは派遣され、ヴァルドッコやそのほかの場所で十字架を受けました。

最後に、十字架を示すこのドン・ボスコは、あらゆる時代のすべてのサレジオ会宣教師の任務を思い起こさせます。若者たちをイエスの十字架、いのちの木へと導くこと！ 良い四旬節、そして宣教の旅を！

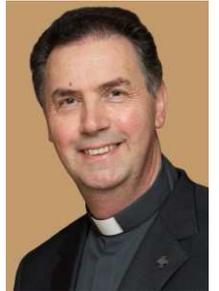
宣教師顧問  
ギジェルモ・バサニェス神父

## 新宣教師求む

2015年だけでなく、この6か年のために、いくつかの宣教地を助けてほしいと願っています。現在、特に困難にある地域ですが、例えば以下の宣教地です：

- ◆アマゾニアの宣教事業、特にマナウス、カンボ・グランジとベネズエラなど。
- ◆チャコ・パラグアヨの宣教事業
- ◆パンパス（南米大平原）とアルゼンチン・パタゴニアの一部地域の宣教事業
- ◆米国の移民の人々の中で働く宣教拠点
- ◆中東の宣教拠点。各地で起きている武力対立のもと苦しんでいます。
- ◆北アフリカ、アラビア湾沿岸諸国、パキスタンのイスラム教徒の中での宣教拠点
- ◆プロジェクト・ヨーロッパに必要な新たな宣教拠点。各地からの移民の結果、社会の中で疎外されている人々のため力を入れています。
- ◆アジアとオセアニアの第一次福音宣教の強化：モンゴル、カンボジア、バングラデシュ、ラオスなど。

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父 SDB  
(最高評議会報419より)



## 宣教師志願の手紙の見本

2015年3月25日

アンヘル神父様、  
……よく識別を行い、霊的指導者と話し合った結果、私、……管区の [氏名] は、国を出て ad externos, すべての人のために ad gentes, 生涯 ad vitam、サレジオ会宣教師として働きたいと望んでいます……  
……主のみ旨に全面的に応える用意のあることとしとして、私は会の中で、神父様の望まれる場所であればどこへでも行く所存です。しかしながら、自分の限界をよく自覚するとき、……が自分にとっては望ましいと思っております。  
この志願の手紙を、全くの自由のうちに、何ものにも強制されることなく、提出致します。派遣先の人々のため、自分の全力をささげることをお約束します。……私のためのご配慮に感謝し、神父様のためにお祈りすることをお約束します。

敬具  
[氏名]

## 私の宣教師の召命はマリア様の贈りもの



**志** 願期のころ、多くのサレジオ会宣教師がよく志願院を訪れ、宣教体験を語ってくれました。その多くがアフリカから来ていて、アフリカに行きたいという私の思いは、まさにそこから始まったと言えるでしょう。宣教師の多くが宣教召命のために聖母に祈るようにと強く勧めたので、私は自分を宣教師にしてくださいよう、聖母に祈り始めました。

確かに、インドは今も多くの宣教師を必要としています。サレジオ会がまだ存在しない国や地域がまだまだたくさんあります。また、インドは、近年、サレジオ会が大きな成長を見せた地域であるという事実を過小評価してはなりません。110年足らずの間に私たちは、12以上の管区に2500名余りの会員を擁するようになり、サレジオ会の存在が世界で最も大きい場所の一つに成長しました。ドン・ボスコのカリスマは、宣教師たちの勇気と自己犠牲にあふれた働きにより、インドの土地に蒔かれ、育まれたのです。今、インドは、私たちがこれまで受けたものをより広くサレジオ会に返す歴史的責任を負っていると、私は強く思います。

私の祈りはとうとう2006年に聞き届けられ、インドのサレジオ会100周年を記念する宣教師派遣に、私も加えられることとなりました。私は自分の宣教召命が、聖母の贈りものだと強く信じています。私は実地課程生として2006年にエチオピアに来ました。そして地元の言葉であるアマリク語をしばらく学びました。エチオピアの最も辺境の宣教地の一つ、サレジオ会にゆだねられているガンベツラ使徒座知牧区で実地課程を体験しました。1年後、神学と専門の勉強のため、ローマに送られました。

司祭となってエチオピアに戻った私は、アマリク語を苦勞しながら学び直しました。ガンベツラに戻って直接的な福音宣教にたずさわることを希望していましたが、ポスト・ノビスに哲学を教える任命を受けました。私はここで、授業や試験、そのほか養成支部に典型的な活動で忙しくしています。宣教師として冒険に満ちた体験はあまりしていませんが、アフリカの宣教師になることが長年の夢だった私にとって、その夢の実現は大きな喜びと満足を与えてくれます。エチオピアの将来のサレジオ会員の養成にたずさわること、大きな喜びです。

ここエチオピアでは、司祭は「アッパ」と呼ばれます。アマリク語で「父」という意味です。「アッパ・リジヨ」とあいさつされるたびに、たとえようのない喜びを心に感じます。なぜならこの言葉は、私とエチオピアの若者へのマリア様の贈りもの、宣教の召命を思い起こさせてくれるからです！



インド出身、エチオピアの宣教師  
リジヨ・ヴァダッカン神父



## サレジオの宣教の聖性のあかし

ペルー初のサレジオ会員司教、チャチャポヤスの司教、神の僕オクタヴィオ・オルティス・アツリエタ(1878-1958)は、1906年、ある黙想の言葉を書いています。「私たちが常に読まなければならない本、忍耐のうちに苦しませてくれる本は、十字架につけられた方だ。イエスは忍耐強いのに、私は人生の楽しみにふけていないだろうか？ イエスははずかしめを受けているのに、私は高ぶっていないだろうか？ イエスが飢えに苦しんでおられるのに、私は貪欲ではないだろうか？ イエスが疲れておられるのに、私は怠けていないだろうか？」



## サレジオ会の宣教の意向

東アジアの信徒・協働者の養成のために

東アジア-オセアニア地域のサレジオ会員が、信仰教育およびドン・ボスコの予防教育法における信徒・協働者の養成に、より組織的に時間とエネルギーを注ぎますように。

東アジア-オセアニアの16の国では、9つのサレジオ会管区と5つの管区委任地区で、1300名の会員が働いています。そのほとんどは、第一次福音宣教の必要な状況にあります。サレジオ会の事業では約18,500名の信徒・協働者が働いていますが、その多くはほかの宗教を持っています。そのため、「使命を共にするパートナー」である協働者たちの養成は、非常に重要です。

